

背景・要因等

プライド・自我、良いところを認めてほしい

- ・下級生は勉強がよくできる。自分のことをバカにしているのではないか。力じゃ負けないぞ。
- ・上級生なのに支援員の先生がいつもそばにいてずるい。
- ・学習内容が難しくなっている。分からない、できないが増えてきているのに、特別支援教室に先生がいなくて急なヘルプができない。
- ・自分に注目してほしい。気を引きたい。本当は優しくしたい。褒められたい気持ちがある。自分を見てほしい。寂しい。先生に認めてほしい。
- ・周りの子が注目されているとイライラして、自分も！と興奮する。
- ・下級生に邪魔されたくない。
- ・自分の予期せぬ時に関われるとイライラする。
- ・羨ましい。見られたくない。
- ・下級生や上級生との関係のつまずきがあり、自分を認めてほしい。友達関係・信頼関係を築きたいと思っているのではないか。その方法が分からなくて気になる行動となって表している。
- ・信頼できる大人や相手にしてほしいと思っている相手に承認されたいという思いがある。多分、認められていると思うが、マイナスの行動を指導されることが多いので、本人的にはプラスマイナスゼロ。
- ・自分第1に考えてもらいたい。愛情を独占したい。
- ・上級生が優遇されていると感じるのはなぜかな？ どういう場面でそう感じているのかな？

仲良くしたい

- ・上級生と仲良くしたいが、方法が分からない。いたずらして気を引く以外の方法がない。
- ・上級生に対して、上級生のことは好き。でも避けられるからいたずらしてやろう。(避けられることが興奮材料になる。)
- ・人は好きだが、自分の時間は大切にしたい。

自信がない

- ・自分に自信がない。学級の中で自分の得意なことを十分に認めてほしいと思っている。下級生に頼られたい。

楽しいことができない

- ・楽しいこと、自分の好きなことができていない。

二次性徴

- ・自分でも分かっていないモヤモヤやイライラがある。

支援策

好きな遊び(共通)

- ・学級3人で取り組める楽しい活動や共通の遊びを意図的に設定する。
- ・自分の好きなことに集中できるようにする。好きそうな遊びなどを増やすかわりをもつ。

得意・認められる(自己有能感)

- ・得意なことや好きなことで係活動など、やったことが認められる・褒められることを設定する。
- ・正しいかわりができた時は、褒めてあげる。褒められるような活動を増やす。常に見ているよ。
- ・得意なところを伸ばして褒めてあげる・認めてあげる。(具体的に)
- ・下級生に何か教える。役割を。みんなに有難うと言われたい。体育係とか。
- ・できたことを分かりやすく伝える。運動面での得意なこと。PCでできること。友達が喜んでくれること。

大事に思っている

- ・児童が興味をもっていることに教師が興味を示し、児童に対して関心があること大事に思っているよと。
- ・今のように受け止める。先生の姿勢を続ける。本人の気持ちを分かってくれること、安心を伝える。

視覚化

- ・「○○くん、ってどんな人？」友達のいいところ。(自己理解・他己理解)
- ・もっともっと見てほしい。目で見えるように写真カードを貼ってみては？「○○ちゃんタイム」
- ・視覚的に評価できるものを取り入れてはどうか。(自分も友達も教師も分かる)

発散

- ・体を使うこと運動することが好きなようなので、発散する場面を設定する。

言葉で伝える

- ・正しい関わり方を引き続き教えていく。言葉で伝えるように支援していく。